

江中より舟をりて夫を指して云ふ南
 海に遠く在りて少くは江に接する所
 なり和南を舟中より見る可なり

[illegible][illegible]

一、姓名：劉子安

上
中

一、市月所上店中由五方由後生年清

[illegible][illegible]

一 幸ふ後神年四回年々明くわし別記
及し

一 高月夜うき名屋とて少用使とて本
よりあつた事なり

一 本屋も古名なまに藤と仕とて又
日教市とてあつた事なり作た金とて
中村の屋敷もあつた事なり

一 中村の屋敷もあつた事なり
一 中村の屋敷もあつた事なり
一 中村の屋敷もあつた事なり

一 中村の屋敷もあつた事なり
一 中村の屋敷もあつた事なり
一 中村の屋敷もあつた事なり

一 中村の屋敷もあつた事なり
一 中村の屋敷もあつた事なり
一 中村の屋敷もあつた事なり

一 中村の屋敷もあつた事なり
一 中村の屋敷もあつた事なり
一 中村の屋敷もあつた事なり

一 中村の屋敷もあつた事なり
一 中村の屋敷もあつた事なり
一 中村の屋敷もあつた事なり

古傳に記されし事と今傳に記されし事と
中

一 今傳に記されし事と今傳に記されし事と

一 本傳に記されし事と本傳に記されし事と

一 傳に記されし事と傳に記されし事と

川島金澤市入江田村なる山田村なる市に別れて

川島金澤市入江田村なる山田村なる市に別れて

一 川島金澤市入江田村なる山田村なる市に別れて

川島金澤市入江田村なる山田村なる市に別れて

川島金澤市入江田村なる山田村なる市に別れて

川島金澤市入江田村なる山田村なる市に別れて

六三書

一 傳に記されし事と傳に記されし事と

川島金澤市入江田村なる山田村なる市に別れて

一 傳に記されし事と傳に記されし事と

川島金澤市入江田村なる山田村なる市に別れて

川島金澤市入江田村なる山田村なる市に別れて

川島金澤市入江田村なる山田村なる市に別れて

一 傳に記されし事と傳に記されし事と

拾の人表にふくまはれりて之を辨別
しむるに信を止る事也ふくまはれり
たるは事なり其を以て 此の事

子月

申月廿二日

社務部より

・また古き物もあつての事人々も之を
此の事なりといふ事あるを以て之を以て
此の事なりといふ事あるを以て之を以て
此の事なりといふ事あるを以て之を以て
此の事なりといふ事あるを以て之を以て

・この表に及ぶ事あるを以て之を以て
此の事なりといふ事あるを以て之を以て
此の事なりといふ事あるを以て之を以て
此の事なりといふ事あるを以て之を以て
此の事なりといふ事あるを以て之を以て

・此の事なりといふ事あるを以て之を以て
此の事なりといふ事あるを以て之を以て
此の事なりといふ事あるを以て之を以て
此の事なりといふ事あるを以て之を以て
此の事なりといふ事あるを以て之を以て

・此の事なりといふ事あるを以て之を以て
此の事なりといふ事あるを以て之を以て
此の事なりといふ事あるを以て之を以て
此の事なりといふ事あるを以て之を以て
此の事なりといふ事あるを以て之を以て

相違二日りの事ある中あるは元道系
今年み子出ても 馬あつた出ても
終

此方初の日出の程ある方方出た
中あるは元道系ある中あるは元道系
中あるは元道系ある中あるは元道系
元道系ある中あるは元道系

酒井氏の所
松平氏の所
石川氏の所

井田氏の所
大田氏の所

相違二日りの事ある中あるは元道系
今年み子出ても 馬あつた出ても
終

此方初の日出の程ある方方出た
中あるは元道系ある中あるは元道系
中あるは元道系ある中あるは元道系
元道系ある中あるは元道系

まきつりし返りきき

一 御寒れのもも衣のなをきききき
ちのきききききききききききき
体のけりきききききききききき
返りきききききききききききき

一 御寒れのもも衣のなをきききき
ちのきききききききききききき
体のけりきききききききききき
返りきききききききききききき
りきききききききききききき

一 ちのきききききききききききき

一 ちのきききききききききききき
ちのきききききききききききき
返りきききききききききききき

一 ちのきききききききききききき
ちのきききききききききききき
返りきききききききききききき

一 ちのきききききききききききき
ちのきききききききききききき
返りきききききききききききき
ちのきききききききききききき

市書院の並竹園及び伊香屋より先之也
 松平五郎平次と云ふ故平次と云ふ
 市書院の並竹園及び伊香屋より先之也
 松平五郎平次と云ふ故平次と云ふ

[illegible]

と云々

九〇

孝

下村氏より渡辺氏宛の書状の写

此の書状は

此の書状は

此の書状は

此の書状は

此の書状は

此の書状は

此の書状は

此の書状は

此の書状は

此の書状は

此の書状は

此の書状は

此の書状は

多入道て中用、事あるにや出るも少く
十段を、事多敷の、事多し、事多し、事多し
あるも、事多し、事多し、事多し、事多し
の、事多し、事多し、事多し、事多し
事多し、事多し、事多し、事多し、事多し
事多し、事多し、事多し、事多し、事多し

一、事多し、事多し、事多し、事多し、事多し
二、事多し、事多し、事多し、事多し、事多し
三、事多し、事多し、事多し、事多し、事多し

物、事多し、事多し、事多し、事多し、事多し
事多し、事多し、事多し、事多し、事多し
事多し、事多し、事多し、事多し、事多し
事多し、事多し、事多し、事多し、事多し

事多し、事多し、事多し、事多し、事多し
事多し、事多し、事多し、事多し、事多し
事多し、事多し、事多し、事多し、事多し

事多し、事多し、事多し、事多し、事多し
事多し、事多し、事多し、事多し、事多し
事多し、事多し、事多し、事多し、事多し

馬子之

山田五郎

恒厚志

江蘇

運多女能成山家運

東京女子美術学校

五言古詩
名如流水通
江

以爲

一、先立定志氣，後下苦功，此是學問第一要事。

三

[illegible]

東坡先生集卷之五

此牙石用

王德富

清江先生

可成場と云ふ御事

又云ふ事也

陳叔

一科四人 昨今此書に於てある物

一科は此科に於てある物

一科は此科に於てある物

一科は此科に於てある物

一科は此科に於てある物

一科は此科に於てある物

一 官者國也乃能為之

一 利不與以刑乃有之

一 官者何也曰中民之制也

一 官者何也曰中民之制也

一 官者何也曰中民之制也

一 官者何也曰中民之制也

一 官者何也曰中民之制也

一 官者何也曰中民之制也

一 官者何也曰中民之制也

一 官者何也曰中民之制也

一 官者何也曰中民之制也

一 官者何也曰中民之制也

一 官者何也曰中民之制也

一 官者何也曰中民之制也

一和五以五為底

子月廿三日

王羲之

多事多磨

一、五、新、年、好、運、來、

卷之四

供以水磨

一
乃
此
中
粒
度
著
大
能
混
白
泥
化

三程有制以源文內其為之別也

供之中有自述一
者爲僑民

東坡先生詩集卷之五

林氏

口上之

和系 產保 昭示 永

24 長 7 中 7 下 7

254

傳子

[illegible]

早稲田 龍王のふくろをふくろとふくろのふ

りてふくろのふくろのふくろのふ

ふくろのふくろのふくろのふくろのふ

ふくろのふくろのふくろのふくろのふ

ふくろのふくろのふくろのふくろのふ

ふくろのふくろのふくろのふくろのふ

ふくろのふくろのふくろのふくろのふ

ふくろのふくろのふくろのふくろのふ

ふくろのふくろのふくろのふくろのふ

ふくろのふくろのふくろのふくろのふ

ふくろのふくろのふくろのふくろのふ

ふくろのふくろのふくろのふくろのふ

ふくろのふくろのふくろのふくろのふ

ふくろのふくろのふくろのふくろのふ

ふくろのふくろのふくろのふくろのふ

ふくろのふくろのふくろのふくろのふ

ふくろのふくろのふくろのふくろのふ

ふくろのふくろのふくろのふくろのふ

ふくろのふくろのふくろのふくろのふ

ふくろのふくろのふくろのふくろのふ

ふくろのふくろのふくろのふくろのふ

ふくろのふくろのふくろのふくろのふ